

# みんなで考える 精神障害にも対応した 地域包括ケアシステム

精神障害のある人が、地域での豊かな暮らしを継続するための希望や必要な環境、それぞれの立場で実践したいこと、などワークショップにご参加いただいた皆さまの声をまとめました。

福祉施設で相談窓口とグループホームを担当しております。病院や市役所には連携させてもらっていますが、地域に住む課題を抱えた方との交流の機会はなかなか、ありません。今後はコロナ対策の制限はありますが、施設でのそのような方々との交流ができるようなイベントがしたいと考えます！

地域の人、企業や民間団体、もちろん当事者・家族を中心において皆でつながる地域、社会、それを作る小さい力・一員として尽力していきたい

ざっくばらんに意見交換できる場作り。出向いて情報を得ていく姿勢、実践したいです。

## 地域づくり

「我が事」として取り組める空気作りを関係機関と行えればと考えました。関係者が抱える思いを聴き、参加意識もてる取り組みの立案を起点に、当事者やその家族が抱える思いを取り組みに乗せて発信することが重要と感じました。そのためにも、やはりどんな支援者がいるか、課題意識のある支援者・当事者は地域のどこにいるか、など「自分の地域を探索」してみようと思います。  
(相談支援事業所・相談支援専門員、にも包括構築推進事業を受託法人所属)

兵庫県でピアサポート活動を行なっています。地域の一般の方々との交流に関して積極的に行っており、精神疾患についての理解を深められれば、これから退院を考えておられる方も含め、当事者、一般の方双方にとって暮らしやすい状況が作れるのではないかと思います。

精神障害についてピアサポート活動がもっともっと盛んになればうれしいです。私の夢は地域でのピアサポート活動の拠点をつくることです。当事者が作り上げていくインフォーマルサービスというものを目指しています。  
(精神障害のある当事者)



近隣住民の方が、精神障害について、知る機会を沢山作ることが必要と思われる。身近な生活の中で考えて行きたいと思います。  
(家族、障害福祉サービス運営)

スティグマを解消するためには、教育や啓発も大切だが、身近に地域で違和感なく生活できる環境が必要だと感じています。地域の理解・インフォーマルの方との接点を自然に共有できるイベントや催しを定期的に開催できる地域にしていきたいです。

ピアサポーターとして、自ら出向き、行政や事業所などにアプローチを無理なき範囲でかけていきたいです。地域活動支援センター等事業所などでのメンバーの自主性を尊重しながら自らも特技をいかしてプログラム作成、運営を続けていきたいと思いました。  
(相談支援事業所のピアサポーター)

訪問看護ステーション勤務の看護師です。精神障害のある方のお宅に主に訪問に伺っています。利用者さんやご家族の望む生活のために自分ができることをひとつずつ丁寧に動いていきたいと改めて思いました。

アウトリーチは「目的ではなく手段」であるということを念頭に、医療につながることをゴールではなく、そこから継続した医療・福祉を展開していけるように協力していきたいと思います。  
(医療機関の相談員)

訪問看護に従事する看護師です。まずは顔の見える関係づくり、そして「保健」「医療」「福祉」それぞれの得意・不得意を知る努力とその支え合い、そして齟齬のないよう丁寧な協議を心掛けたいと思います。

## サポート

病院での活動も地域生活のために、個別に対応していく必要性を感じています。現在は法律上、作業療法士は集団対応が多く、個別ケアには時間を割きにくい状況ですが、その中でも、退院後の生活に視点を置いたプログラムを提供できるようにしていきたいと思います。  
(精神科病院・作業療法士)



## 参加

現在は専門職だけの議論になっている面が強く、当事者はただの支援対象で「ともに生きる」ことはほとんど考えられていない傾向があるように感じますので、行政・保健所・事業所職員・民生委員・ピアサポーター・自助グループ・当事者・家族など、精神障害に関わる人たちが一緒に考えていけるような場・環境作りが必要だと感じます。実現に向けてできることから考えていこうと思います。

地域の協議の場には私たちが家族も積極的に参加していきたいと思っています。

